

6月7日告示、16日投票

沖縄県議選

予定候補者紹介

基地のない平和を原点に

日本共産党

「軍事ではなく、対話と外交による平和構築を」。岸田政権が進める沖縄の島々の軍事要塞(ようさい)化に対置した、この方向こそ沖縄の進むべき未来があると訴えます。

米軍支配下にあった沖縄で、弾圧に屈することなく本土復帰運動の先頭に立った「不屈の人」、瀬長亀次郎(元沖縄人民党委員長、元日本共産党副委員長)の孫です。復帰の際、祖父た

ち県民の多くが何よりも願った「基地のない平和な島」の実現を原点に、県議会で活動してきました。玉城デニー県政も復帰50年に公表した新「建議書」でこの原点に立ち返り、軍事力によらない対話でアジアの平和と安定に貢献する決意を表明。この理念のもとに知事は地域外交を進めています。

豊見城市区(定数2)

セナガ美佐雄 予定候補 (61) 現



【プロフィール】 1962年生まれ。県立農業大学卒業。豊見城村・市議7期、県議2期。

豊見城市区は、セナガ氏と自民現職が立候補を表明し、他党派も候補擁立に動いています。日本共産党と「オール沖縄」のかけがえのない1議席を、軍事基地増強の推進勢力に渡すわけにはいかないと、セナガ氏は1月上旬から毎朝の宣伝に奮闘しています。

「デニー知事の新建議書の取り組みを軌道に乗せるには、基地をなくしてこそ沖縄の未来は明るいということをどれだけ県民に広げられるか。安保廃棄を掲げ、米軍基地の全面撤去を求め共産党がその役割を果たす。絶対に負けれない」(しんぶん赤旗 2024年3月29日より)

沖縄がルーツの県系人は世界各地に40万人。他県にないネットワークと強みを生かし、国連機関の誘致など沖縄を平和創造の拠点にするための提案をしてきました。県系人の交流拠点として設置を求め続けた「世界のウチナーンチュセンター」も5年後の実現が発表されています。